

市之川公民館だより 令和7年10月号 (No.622号)

〒793-0037 西条市市之川6678-1 市之川地区人口「8月末現在」

Tel・Fax (0897) 56-3300 人口 7人(男3人・女4人)

eメール ichinokawa-k@saijo-city.jp 世帯数 5世帯

※ 西条市市之川公民館だよりで検索するとカラー版がご覧になれます。

10月 神無月 (かんなづき)

10月に入り、朝夕としのぎやすさを感じる頃となってきました。

しかしながら、日中はまだまだ暑い日が続きそうですね。熱中症にお気をつけお元気でお過ごし下さい。

さて、市之川公民館、10月から閉館に向け本格的に移転が始まります。その様子は11月以降の公民館だよりで随時お知らせします。

《10月の行事予定》

日	曜	行事・時刻・場所
12	日	臨時休館
13	月	祝 スポーツの日
16	木	臨時休館
※ 9月13日(土)を持ってカラオケ会は終了しました。		

公民館の花
ヤリケイトウ



※ 田邊一郎先生御夫妻 来館 8月10日(日)



田邊一郎氏がアメリカの鉱物雑誌「ミネラロジカルレコード」への掲載を記念し、御夫妻で市之川鉱山跡の撮影に來られました。



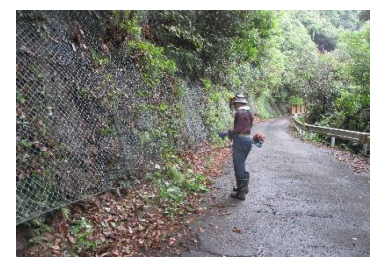
※ 東北大学から来館

8月10日(日) 東北大学から28名の方が来館されました。丸野川において東北大学名誉教授、現八戸工業高等専門学校長の土屋範芳氏による市之川礫岩の勉強会がありました。土屋氏から「千荷坑前の川沿いの露頭は大変貴重なものです。この露頭は地震のエネルギーにより岩石自体がその場で破壊され礫のようになったものです。この地震は中央構造線の活動に伴った地震でしょう。それにあの露頭は世界的にも貴重なもので天然物としても価値のあるものと思います。市之川は輝安鉱だけではないですね!」とのコメントを頂きました。



※ 市道武丈丸野線等の除草作業

道路介護団体による市道の草刈り。今年も猛暑ということもあり、8月下旬から個々に除草や道路清掃をされていたようです。9月13日(土)は午前7時に集合。この日で市道の除草作業等は全て終わりました。皆さん暑い中、お疲れさまでした。



社会福祉協議会市之川支部では9月2日(火)から9月12日(金)にかけ、里道、市道の一部の草刈りや路面清掃を行いました。猛暑のため思うように捗りませんでした、何とか無事に終わることができました。

除草前



除草後



武丈丸野線から市之川集落へ向かう道

路面清掃後 市之川谷橋付近



※ 四国西予ジオミュージアム訪問



8月16日（土）西予市の四国西予ジオミュージアムを訪問しました。



高橋館長・榊山学芸員・愛媛大学教授 榊原正幸氏を交え、昼食会を兼ねた座談会。

館内の説明



会議室にて、高橋館長による四国西予ジオパークの設立から課題についての説明がありました。

シルバー人材センター新規会員募集！

60歳以上のたくさんのシルバー世代が元気で活躍しています。日々の生きがいに、地域社会への貢献に、空いた時間でOK！屋内外清掃、送迎等の運転、スーパーでの軽作業、介護補助等様々な分野で活躍しています。入会の方法などお気軽にお問い合わせください。

【問合せ先】 小松町新屋敷甲496（小松サービスセンター3階）
公益社団法人西条市シルバー人材センター
電話：0898-76-3670

高齢者交通安全教室を開催します！

自動車を運転される高齢者の方を対象に、体験型の交通安全教室を開催します。ドライブレコーダーによる御自身の運転の再確認や踏み間違い加速制御システムなどを体験することができます。ぜひ、御参加ください。

- 日 程：令和7年11月17日（月）
- 時 間：午前の部 9時～12時、午後の部 13時30分～16時30分
※申込時にどちらか希望をお伝えください。
- 場 所：西条ドライビングスクール（西条市石田284番地）
- 対 象：市内在住のおおむね65歳以上の方で、自動車運転免許をお持ちの方
- 定 員：午前・午後でそれぞれ21人（先着順）
- 応募締切：11月4日（火）
- その他：当日は運転免許証と、眼鏡等運転に必要なものをお持ちください。
- 申込先：西条市役所危機管理課くらし安全係
TEL 0897-52-1284（直通）

2025年9月10日

～毎月10日は人権を考える日～

戦後80年と「アンパンマン」

人権侵害の最たるものは、「戦争」「差別」である。（松本治一郎の遺訓）「戦争」は、人々のさまざまな権利と人権を奪うものである。したがって、「戦争は差別」である。

- 1 戦争（差別）をすることは、
 - ・相手の様々な権利と人権を奪う。
 - ・「生きる」ことの権利を奪う。
- 2 戦争（差別）をする者は、戦争（差別）をすることを正当化しようとする。

爆弾が落ちれば罪のない子どもも死んでしまう。やっぱり戦争というのは絶対やっちゃいけない。どんな理由があっても。戦争というのは、いつもいろいろ理屈をつけるわけです。「向こうが非常に悪いから正義のためにやるんだ」って言うけど、正義のための戦争なんてものはないんですよ。
（NHKアーカイブス・アナウンサー百年百話「やなせたかしさん～アンパンマンに込めた想い」）

2025年（令和7年）度前期に放送のNHK「連続テレビ小説」第112作で放送されている「あんぱん」。絵本「アンパンマン」を生み出した高知県出身の「やなせたかし」さんとその妻「小松暢」の生涯を描いたものである。やなせたかしさんは、戦前から戦後にかけて生き抜いた人である。また、戦争体験者でもあり、最愛の弟をこの戦争で亡くされている。やなせたかしさんは、NHKの「100年インタビュー」という番組の中で、アンパンマンに込めた想いを語られていた。「正義のための戦争」なんてないこと、正義なんて逆転するということを力説されている。従軍したとき、「中国の民衆を救わなくてはいけない」と言われた。しかし、戦争が終わってみると、「自分たちは悪くて、侵略した」ことになっていた。

今、ウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナが戦争をしている。これらの戦争をみても、どちらにも言い分がある。真実は一つのはずであるが、戦争を正当化しようとしている面もみられる。差別も同様で、差別している者は、「差別することは、しかたないことで正しい」と主張する。それは、すべて「偏見」に基づくものであることは明白なのである。作家の榊（かけはし）久美子さんは、「やなせたかしの生涯」（文春文庫）という本の中で、やなせたかしさんについて次のように書いている。

- 絵本「あんぱんまん」の中でいちばん描きたかったのは、おなかをすかせた人に食べさせて腹がなくなってしまったアンパンマンが、エネルギーを失って失速するところだった。そこには「正義を行い、人を助けようとしたら、自分も傷つくことを覚悟しなければならない」という考えがある。
- 自分の食べものをあげてしまったら、自分が飢えるかもしれない。権力に対して声をあげれば、自分の立場が不利になるかもしれない。子どもなら、いじめられている友だちをかばったら、自分がいじめの標的にされるかもしれない。それでも、信念をつらぬきたいと思ったとき、勇気がわいてくる。

と、やなせたかしさんは考えていたという。そこで、アンパンマンを、あえて「弱いヒーロー」にして、弱いものであっても勇気を出したとき、ほんとうのヒーローになれるという考えである。アンパンマンは顔がぬれたり汚れたりするとすぐパワーがなくなる。もう一度人を助けられるようになるには、新しい顔を作ってもらわなければならない。そのためにはジャムおじさんという「仲間」がいたのである。しかも、悪者のバイキンマンに対しては、悪者という「偏見」や「決めつけ」を一切しない。しかし、バイキンマンの悪い行いに対しては毅然とした態度をとるのである。

これらが、戦争を体験したやなせたかしさんの絵本「アンパンマン」に込めた想いと「正義」のとらえ方であったようだ。学校教育の人権・同和教育の中の「道徳」において、「正義」の題材が多く使われている。「正義」とは、誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること（道徳学習指導要領）とある。しかし、教師がこの「正義」をどう指導することが望ましいのだろうか。小・中学校で、「正義」を題材とした道徳の人権・同和教育の授業を参観することがあるが、子どもたちはどう考えているのだろうか。

出典：NHKアーカイブス・アナウンサー百年百話「やなせたかしさん～アンパンマンに込めた想い」
榊（かけはし）久美子 著「やなせたかしの生涯」（文春文庫）

西条市人権教育協議会 西条市人権擁護課